

シンポジウム

阪神・淡路大震災 30 年 被災地から問うアスベスト対策

アスベストが使用された建物は、国内に数多く残されています。近年の気候変動による大雨や台風、そして巨大地震が発生すると建築物からアスベストが飛散し、市民や工事関係者、ボランティアの皆さんが吸い込んでしまう可能性があります。

自然災害の発生に備え、アスベスト対策の教訓を活かすことが求められています。防災の日(9月1日)にアスベスト対策を一緒に考えましょう。ぜひご参加下さい。

2024年9月1日(日)13:30~16:30

神戸市中央区文化センター1001+1002号室
(神戸市役所西隣 三宮駅から徒歩6分)

参加
無料

第一部 報告

1

「阪神・淡路大震災時の市民によるアスベスト問題の取り組み」
中地 重晴さん (熊本学園大学教授)

2

「被災地におけるボランティア活動と粉じん対策の必要性」
村井 雅清さん (被災地 NGO 協働センター顧問)

3

「台風、水害等の自然災害による被害とアスベスト」
永倉 冬史さん (NPO法人 中皮腫・じん肺・アスベストセンター事務局長)

第二部 パネルディスカッション

申し込み方法

右記の QR コードを読み取り、お申し込みください。



問い合わせ先

NPO 法人ひょうご労働安全衛生センター

〒650-0026 神戸市中央区古湊通 1-2-5DAIEI ビル 3F

TEL:078-382-2118 FAX:078-382-2124



※本活動は 2024 年度

地球環境基金の助成を受けています